

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和8年1月6日	～	令和8年1月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 24名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	令和8年1月6日	～	令和8年1月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団の中でみんなと一緒に活動できるよう、プログラムの工夫や環境づくりに取り組んでいます。基本的な活動に加え、さまざまなグループ活動や季節の行事を取り入れ、豊かな体験ができるようにしています。 こうした取り組みを通して、「みんなと歩く・座る・移動する・運動する」といった集団行動の力を育み、ご家庭や地域社会の中で「暮らしていく力」を身につけられるよう支援しています。	・スタッフ研修や日々のミーティングを通して事例検討を行い、プログラムの構成やスタッフ配置、配慮すべき点の確認、改善策について意見交換を重ねています。また、基本プログラムに加えて、感覚タイム・音楽タイム・サッカータイム・動作法訓練などの多彩なグループ活動や季節の行事、ご家族の方にも参加していただけるイベントなど、さまざまな活動を取り入れています。  ・ご家庭でのライフイベント（家族旅行、運動会、卒園式、七五三の参拝など）に参加したり、経験の幅を広げたりできるよう、面接での相談や段階的な取り組みをご提案しています。ご家族と一緒に、人生の節目となる大切な機会を安心して迎えられるよう、バックアップ支援にも取り組んでいます。	研修や意見交換の場では、重要なポイントを明確に言語化し、相手が直感的に理解しやすい表現を心がけることが求められます。そのため、分かりやすい言葉の選択や具体例の提示、内容の可視化などに取り組んでいます。こうした工夫や伝達力をさらに高めるため、日頃から子どもたちや保護者の方々とコミュニケーションの中で意識して実践するとともに、研修受講を通して学びを深めていきたいと考えています。
2	「食べる・寝る・排泄する」といった生活の基本を大切に、センターでは園内調理の給食提供に加えて、一人ひとりの特性に合わせた食事指導を丁寧に行っています。また、日中に「見る・聞く・考える・体を動かす」活動をしっかり行うことで、夜の睡眠が整いやすくなるよう、生活リズムづくりの支援にも取り組んでいます。 食事、睡眠、排泄に加え、衣服の着脱、挨拶(コミュニケーション)などの基本的な生活習慣の確立も大切にしています。日々の活動を通して、子どもたちが健やかな生活習慣を身につけられるよう支援しています。	親子通園や面接を通じて、生活習慣の確立や行動の調整に向けた話し合いを行い、具体的な対応や対策に取り組んでいます。さらに、ライフイベントを家族と経験できるよう、日々のやり取りの中に取り入れ、段階的なステップを踏んで経験を広げられるよう支援しています。こうした積み重ねにより、子どもたちが安心して、自信を持って生活の幅を広げていけるよう取り組んでいます。	お子さんの特性や能力に合わせて課題を設定し、理解しやすい身につけやすい多様なアプローチを広げていきます。これにより、より丁寧な学びの獲得につながる支援の充実を目指します。
3	保護者の方々への学びの場や情報交換の機会として、親子通園、親子タイム、ファミリー学習会、卒園児保護者との交流などを実施しています。これらの取り組みを通して、家庭と園が連携しながら子どもたちの成長を支えられるよう努めています。	ファミリー学習会を通じて、当施設への理解を深めていただくとともに、療育(発達支援)の重要性について考える機会を提供しています。また、グループワークを通して保護者同士が情報交換や交流を行える場にもなっており、家庭と施設が連携しながら子どもたちの成長を支える大切な時間となっています。	保護者が参加しやすく、学びや交流が深まるような取り組みを進めていきます。テーマに応じた専門職による講話の充実や、保護者同士が安心して意見交換できるグループワークの工夫を行い、家庭と施設が連携して子どもたちの成長を支えられる環境づくりを目指します。 さらに、卒園後の思春期・就労・成人期・青年期以降を見据えた学習会や研修会の企画にも取り組み、長期的な視点で保護者支援を充実させていきます。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流 地域の方に園のことを認識してもらう	園の活動内容や目的が十分に地域へ伝わっておらず、地域との関わりをさらに深めていく余地がある。そのため、どのような形で地域とつながるかについて、他機関から情報を得ながら検討しているものの、効果的な発信方法の選択や発信頻度には課題が残っている。	1. 地域とのつながりを広げる取組 地域のイベントへ積極的に参加し、園児の作品を出展することで、地域の皆さまに園の活動を身近に感じてもらえる機会をつくる。また、パンフレットの配布や展示を通して、園の活動内容や理念を分かりやすく伝える啓発活動を行い、地域への認知向上を図る。 2. 保護者が参加しやすい環境づくり 「療育(発達支援)とはどのようなものか」を知っていただく機会を設けるとともに、療育(発達支援)の必要性を感じている保護者が気軽に園へ相談・来園できるよう、参加しやすい場づくりを進める。
2	スタッフへの児童発達支援センターとしてのセンター機能についての学びと意識改革	1. センター機能への理解不足 児童発達支援センターが担う役割や、地域におけるセンター機能の重要性について、スタッフ全体で十分に共有されていない。事業所として必要な情報提供や教育の機会が不足しており、センターとしての方向性を共通認識として持ちにくい状況がある。 2. 業務量や時間的制約 日々の支援業務が多忙であることから、センターとして求められる対外的な連携業務や地域支援に十分な時間や人員を割くことが難しい場合がある。このことが、センター機能の発揮を妨げる要因となっている。	1. センター機能への理解不足への改善策 スタッフが児童発達支援センターの役割や方向性を正しく理解できるよう、情報提供を強化する。センター機能に関する説明会や研修を定期的に行い、理念や地域での役割を共有し、スタッフの意識向上を図る。 2. 業務量や時間的制約への改善策 日々の業務を見直し、作業の簡略化や効率化を進める。業務支援ツールやシステム導入を検討し、スタッフの負担を軽減することで、対外的な連携や地域支援に必要な時間と人員を確保しやすい体制を整える。